

営農だより 第5号

おいしいをつくりましょ。

富士伊豆農業協同組合

発行 令和5年5月2日
北駿産米改良推進協議会
JAふじ伊豆御殿場営農経済センター
0550-84-4820

- 目標**
- ①食味値 80 点以上
 - ②『米ぬか』使用の土づくりによる食味向上、循環型農業の実践

～植え付け本数(3～4本)、 深さ(2cm)で田植えを行いましょう～

ほ場によって植え付け本数を変えましたか？

適正な莖数(穂数)を確保することが食味向上のポイントです!!

今年の4月は上旬から中旬にかけて気温がかなり高く推移し、日照もしっかり確保できたかと思えます。このような環境下でムレ苗や徒長苗、苗を焼いてしまった農家も散見されましたが、病気の発生はあまり見られず、基本的には順調に生育しています。5月から向こう1カ月は気温が高くなることが考えられ、降水量は平年並みか多い見込みです。

苗が短い場合は植え傷みしないよう田植え機を速度を控えめにし、ゆっくり浅植え(2cm以上の深植えをしない)をし、葉が水没しない水管理をお願いします。

田植え後の水管理はこまめに行ってください。良食味米生産のポイントである太く、揃いの良い分けつの確保を目指しましょう(可能な場合、5月中下旬より深水管理)。また藻類の発生は初期生育の障害となるため、早めの防除を行いましょう。

【御殿場の気象】アメダスデータ御殿場

項目	平均気温(℃)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	本年	平年	差	本年	平年	%	本年	平年	%
4月1～5日	11.5	9.3	2.2	41.2	27.4	150.4	0	46.0	—
6～10日	12.0	10.3	1.7	32.7	27.8	117.6	77.5	45.0	172.2
11～15日	13.5	11.1	2.4	36.3	26.7	136.0	66.0	43.6	151.4
4月前半 計	12.3	10.2	2.1	110.2	81.9	134.6	143.5	134.6	106.6
4月16～20日	14.4	11.9	2.5	39.2	25.4	154.3	8.0	42.5	18.8
21～25日	12.1	12.7	▲0.6	12.5	26.1	47.9	1.0	39.1	2.6
26～30日	14.3	13.5	0.8	30.9	27.9	110.8	34.0	36.4	93.4
4月後半 計	13.6	12.7	0.9	82.6	79.4	104.0	43.0	118.0	36.4
4月 計	13.0	11.5	1.5	192.8	161.3	119.5	186.5	240.8	77.5

注意

補植苗は必ず撤去しましょう!!

補植苗はいもち病の発生原因となります。ほ場内に置いている補植苗は、補植後速やかに撤去をお願い致します。

【令和5年度 育苗巡回結果】～来年に向けた考察～

4月の上旬から中旬にかけて気温の高い日が続きました。少し目を離れた間にハウス内の気温が上がってしまい、苗を焼いたり、早い時期に苗が伸びてしまったりした農家が散見されました。ハウス内の温度の管理が難しかったと思います。必ずハウス内に温度計を設置しましょう。またプール育苗では時々、水の入れ換えを行って水温にも気を付けましょう。水温が高いとムレ苗や徒長苗の発生が懸念されます。雨が降っていたり苗や土が十分に濡れていたるときは灌水を控えましょう。

育苗期間中に生育ムラが見られるのはハウスやトンネル内の温度や日光の当たり方、灌水方法が要因となることもあります。苗箱の位置の置き換えや朝に水を均一に与えるなどを心がけましょう(灌水用の水がお湯になっていないことを確認しましょう)。

毎年同じ管理とはいかず難しいことが多くありますが、天気予報やハウス内の温度管理を徹底し、夜間は保温、日中は涼しい管理を行って来年も丈夫な苗づくりを行いましょう。

【田植え】

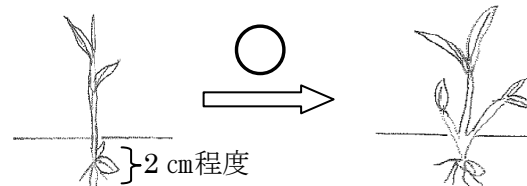
慌てて田植えを行うとかえって後で手間がかかってしまうことが考えられます。田植え時、田植え後は以下のことに注意し、より良い稲づくりをスタートしましょう!!

★薄植えを心がけましょう

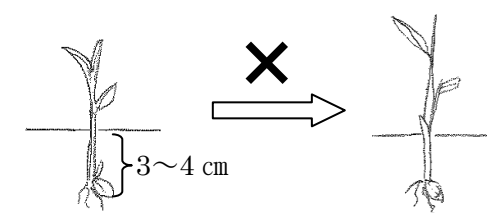
分けつが多くなると粗にならない無効分けつが増えてしまいます。(本数は前回号を参考にしてください)

★浅植えを行いましょう

浮き苗の出ない程度に浅く植えましょう。



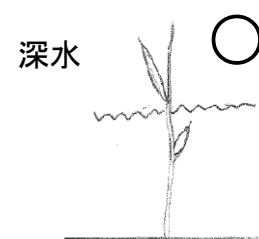
浅植えすると分けつが早く確保でき、茎や根がしっかり開帳する。



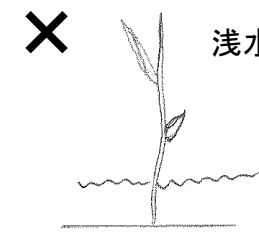
深植えすると分けつが抑制され、地温が上がらないと根の発根も抑制される。

★直後は深水にして苗を寒さや風害から守る

稚苗の活着限界温度は12℃です。深水で苗を保温してあげましょう。寒い日、夜間冷える日、寒風が吹く時にも深水にして水の保温力で苗を保護します。



← 寒い日 →
← 夜間冷える日 →
← 寒風が吹く日 →



苗がすべて水中に沈んでしまわないように気を付けましょう。

★ 活着(田植え後 5~7 日)後、浅水管理で「分けつ」を促す

2~3cm の浅水管理(2~3cm の水深が最も水温・地温が上がる)により良質な分けつを促進しましょう。

★ 夕方・夜に入水し、朝止めることで水温確保に努める

夜、用水の温度が水田の水の温度を上回ります。そのため夜間に水をいれ、朝の仕事前に水を止めることで温かい水を保つことができます。日中の掛け流しは絶対に行わない！！

★ ガスの発生が多い場合は1~2日落水する

水田に足を踏み込んだとき気泡の発生が多い場合は、水の更新や落水するなどしてガス抜きをしましょう。田植え後およそ 20 日頃からガスの発生がみられます。土壌への酸素供給やガスの除去を図り、根を健全に保つためにも、水田へ入って土壌の様子を確認しながら必要に応じてガス抜きを行いましょ。

※除草剤散布後、7 日間は落水、掛け流しを行わないでください。また、中後期除草剤を使用する場合はガス抜き後施用しましょう。

【除草剤】

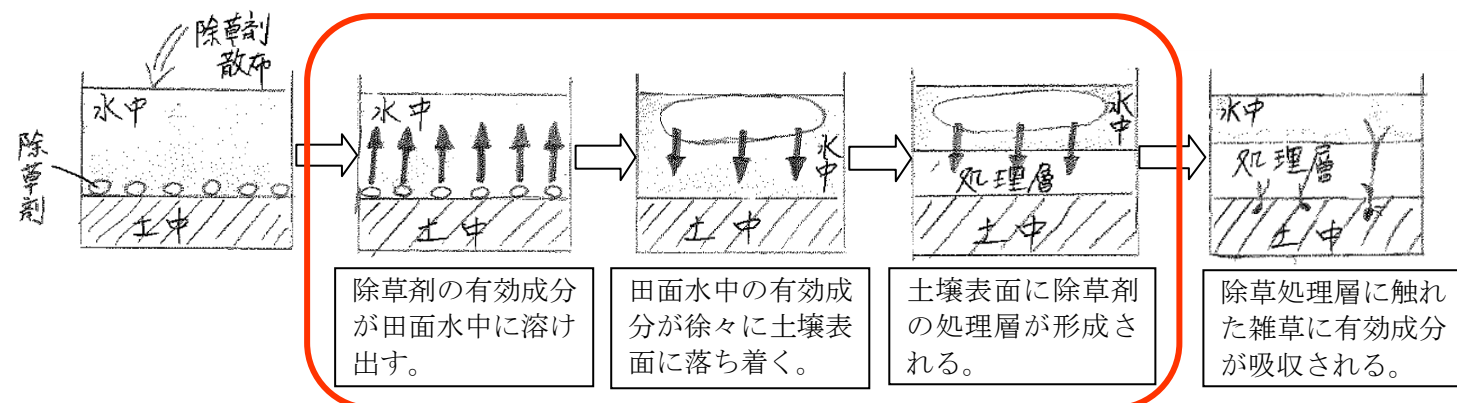
水管理と散布時期が重要 !!

- 除草剤の処理層ができるには 3 日程度かかる。
除草剤散布後 3 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水・掛け流しをしない。
- それぞれの除草剤の使用適期に使用する。
(遅すぎると除草剤の効かない雑草の葉齢となってしまう。)
- 多年生雑草(クログワイ・オモダカ等)が多い場合はレブラスを使用した体系処理をし、それでも雑草が残る場合は後期除草剤(バサグラン等)を施用し、3 年程度かけて徐々に少なくする。

初期剤と一発剤の体系処理について

除草剤には雑草の出芽を抑える働き(土壌処理効果)と、生育している雑草を故殺する働き(茎葉処理効果)があります。また初期剤は土壌処理効果が高く、後期剤になるほど茎葉処理効果が高くなる特徴があります。

~除草剤効果のメカニズム~



この時期、水が抜けると処理層の除草剤濃度が低くなり、効果が低下します。

(処理層作成に 3 日程度かかります)

【藻類の対策】

生育初期に藻類が発生すると、分けつの確保を妨げるため早期防除を心がけましょう !!

対策~モゲトン粒剤を散布。2~3 kg / 10 a (エコ栽培米ほ場は散布不可)

※モゲトンは晴天の暑い日に撒くと効果的です。

※表層施肥、入水頻度の多い漏水田、有機質肥料を施肥しているほ場では発生が多くみられますのでご注意ください。

それでも雑草が残ってしまったら・・・

ヒエだけが残った場合 => クリンチャー 1 号粒剤 (ヒエ 4~5 葉期まで)

ヒエと多種類の雑草が残った場合 => クリンチャーバス ME 液剤 (ヒエ 5 葉期)

多年生雑草が多く残った場合 => バサグラン粒剤

※クリンチャーバス ME 液剤とバサグラン粒剤は落水状態で使用してください

《重要》『田植え時の葉齢』

田植えをするときに、植える苗が何葉(何枚)になっているか数えてみましょう!!

稚苗: 2.3 葉 中苗: 3.5 葉

が田植え時の基本的な葉齢となっています。

徒長苗は根がしっかりと活着するよう田植え後に深水管理をし、丈が短い場合はゆっくり浅植えして葉が水に浸からないよう気をつけましょう。

☆ご協力をお願いします☆

田植えが始まりました。

肥料や農薬の散布も始まっているかと思いますので栽培履歴の記帳を始めましょう。

また出荷を予定されている方は出荷契約書の記入にもご協力をお願いいたします。

春の農作業安全確認運動

春は、水稲では耕うんや田植え、茶では摘採から工場での荒茶製造など、農業機械の利用が多い時期です。農作業事故の多くが、単純なミスによるものであり、十分注意することで防ぐことができます。基本的な注意事項を確認し、事故の原因を一つ一つ取り除き、農作業事故ゼロを目指しましょう。

また機械を調整したり詰まり等を取り除いたりする際には必ず機械のエンジンを切った状態で行いましょう。少しだから、と機械を動かした状態のまま調整等行くと、重大な事故につながります。